

令和2年度 第145回 奈良市清掃業務審議会 会議録概要版

開催日時	令和2年11月10日（火）15時00分から16時35分まで		
開催場所	奈良市環境清美工場 管理棟2階 見学者ホール		
出席者	委員	梅林委員、倉本委員、河野委員、徳野委員、原田委員、萬谷委員、峯川委員、吉田委員【計8人出席】 (西野委員、福岡委員は欠席)	
	事務局	奥田部長、山口次長、矢倉参事（収集課長事務取扱） 廃棄物対策課：鈴木課長、山森課長補佐、川本係長、平本、迎谷、池之畑 リサイクル推進課：村田課長 まち美化推進課：中室課長 土地改良清美事務所：中嶋所長 環境政策課：穴尾課長 クリーンセンター建設推進課：稲場課長	
開催形態	公開（傍聴人0名）	担当課	環境部 廃棄物対策課
議題 又は 案件	<ul style="list-style-type: none"> ・審議事項1 奈良市一般廃棄物処理基本計画の目標年度及び計画期間の変更について ・報告事項1 災害廃棄物の処理に関する基本協定の締結について ・報告事項2 食品ロス削減の取組の状況について ・その他 		
決定又は 取りまとめ 事項	<ol style="list-style-type: none"> 1 奈良市一般廃棄物処理基本計画の目標年度及び計画期間の変更について承認。 2 災害廃棄物の処理に関する基本協定の締結について報告するとともに、奈良市災害廃棄物処理計画改定の進め方について説明。 3 食品ロス削減の取組みとしての「てまえどり」普及啓発について報告。 4 家庭系ごみ収集運搬業務の民間委託及び新クリーンセンター建設推進事業の進捗状況について報告。 		
議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等			
<p>1 審議事項1. 奈良市一般廃棄物処理基本計画の目標年度及び計画期間の変更について</p> <p>次期総合計画の内容を、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による社会情勢や今後の社会全体のあり方への影響等を踏まえたものとするため、次期総合計画の計画開始年度を2022年度（令和4年度）とし、現行の奈良市第4次総合計画後期基本計画の目標年度及び計画期間を1年間延長すること等を提案する議案が奈良市議会令和2年9月定例会に提出、可決された。これに合わせて、奈良市一般廃棄物処理基本計画の目標年度及び計画期間を1年延長すること（ただし、目標値自体の変更は行わない。）について事務局から説明があり、承認された。</p> <p>合わせて、今年度実施予定であった「ごみ行政に関する市民アンケート」についても、総合計画の期間延長を受け、コロナ禍の状況変化や「食品ロス」削減をごみ処理計画の中心に据えていくなかで、記述を再検討する必要があることから、一旦送付を中止し、次年度早々、改めてアンケート案を委員に提示した後に実施する方向で進めていく予定であることが事務局から説明された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員からアンケートの設問についての意見があり、次年度実施時に意見を反映させた内容とすることが確認された。 ・委員から、食品ロス削減に関しては、別途アンケートを行ってはどうか、またネット等を利用し、簡単な内容にすれば、若年層の意見が得やすいのではないかとの意見があった。 			

2 報告事項 1. 災害廃棄物の処理に関する基本協定の締結について

地震等の大規模な災害および不測の事態において、奈良市の処理施設で処理が困難となった災害廃棄物等の処理を円滑に実施するため、令和2年10月1日に大栄環境株式会社と協定を締結したことを事務局から報告。

- ・委員から、協定を締結した大栄環境株式会社の災害対応実績について質問があり、阪神・淡路大震災以後全ての災害に対応していることを事務局から回答。

また、奈良市災害廃棄物処理計画は、平成21年3月の策定から10年以上が経過しており、策定後に環境省の指針が発出・改訂され、奈良県災害廃棄物処理計画が平成28年3月に策定されているため、これらの考え方を踏まえた内容へと変更すべく、現在見直し作業中であり、素案策定時に委員に提示し、パブリックコメントを実施、意見を反映した最終案を再度審議会で審議いただき、その結果を踏まえ市長決裁後、公開予定とするというスケジュールで、令和3年度早いうちの改定を目指し進めていくことを合わせて報告。

- ・委員から、計画で想定している災害廃棄物は水害によるもの、地震によるもののどちらにウェイトを置いているのかとの質問があり、事務局から、水害による災害廃棄物の発生量の試算は行うが、本市には大規模河川がないため、主には大規模内陸型地震を想定したものとすると回答。

3 報告事項 2. 食品ロス削減の取組の状況について

すぐに食べる食品を買うとき、陳列棚の手前から順番に商品を取ることで、期限切れによる食品の廃棄を減らそうとする購買行動である「てまえどり」の普及啓発のため、「てまえどり啓発レールポップ」を作製し、令和2年10月29日からセブンイレブン（本市と地域活性化包括連携協定を締結）の市内各店舗及びならコープ各店で掲示いただいていること、今後はホームページなどで市内の小売店へ協力を呼びかけ、「てまえどり」のさらなる普及啓発に取り組んでいくことを事務局から報告。

委員から次のような意見があった。

- ・奥のより新しい商品から取って行こうという意識が根強い。
- ・（翌日には廃棄される）値下げ品の入ったワゴンの中から、会社の役員等が率先して購入する姿を見せることで、浸透していったという例もある。
- ・消費期限と賞味期限の違いを理解してもらえるような啓発・教育が必要である。

4 報告事項 3. その他

①奈良市家庭系ごみ収集運搬業務の民間委託について

事務局から、これまで直営と奈良市清美公社への委託によりごみの収集を行ってきたが、本年4月から富雄川西側地域を対象に民間事業者へ家庭系ごみの収集を委託している。引き続き収集方法の多様化を図るべく公社以外の民間事業者への委託を進めるため、令和3年4月から富雄川西側地域に隣接する地域（世帯数は同程度）の家庭系ごみの収集業務を民間委託することについて入札の告示を行ったことが報告された。

- ・委員から、収集を丁寧にしてもらっているという意識から、収集しやすいように協力している地域があるとの意見があった。
- ・コロナ禍での業務について、市民から感謝の声が収集課に寄せられ、職員のモチベーションにつながっていることを事務局から報告。

②新クリーンセンター建設推進事業について、建設候補地の地元説明、広域化の協議・検討等の進捗状況を事務局から報告。